

周辺のみどころ

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落から西へ1.5kmには天然記念物鎌掛の屏風岩、さらにその西500mには藤の花で知られる正法寺がある。

正法寺は毎年5月上旬から中旬に見事な藤の花が咲く名所で、本堂の東側斜面には重要文化財に指定されている正和4年(1315年)造立の石造宝塔がある。境内の藤棚に咲きそろうた藤の美しさは秀逸で、ホンシャクナゲとともに鎌掛の春を彩っている。



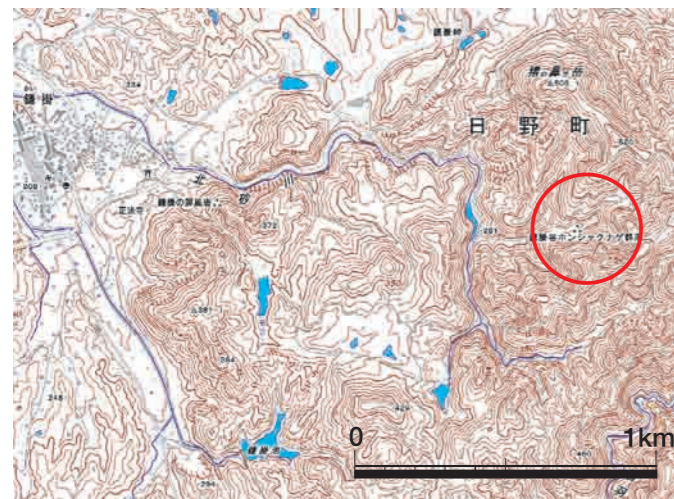
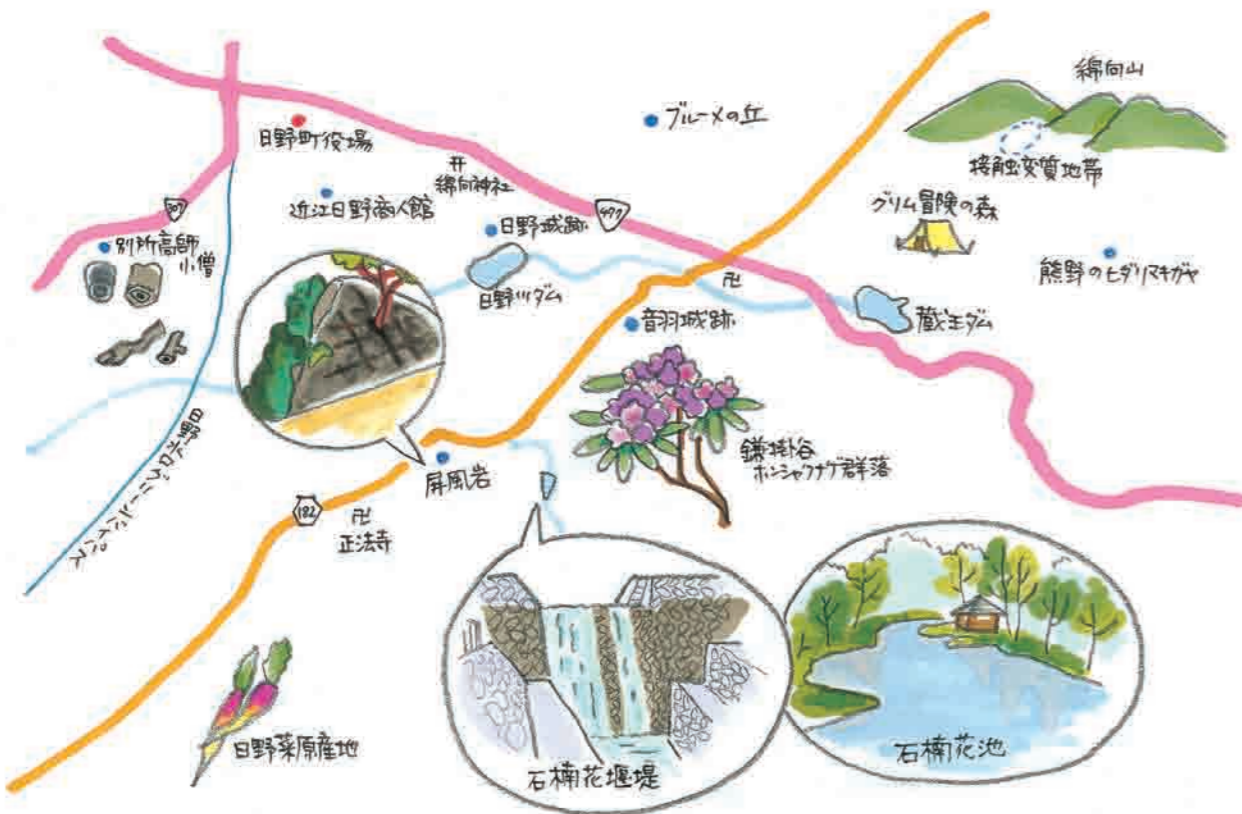
正法寺の藤

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落

日野町鎌掛



ホンシャクナゲの開花



【アクセス】

- 近江鉄道日野駅から鎌掛行バス終点下車。徒歩約40分。開花時期には日野駅よりしゃくなげ溪まで臨時バスが運行される。

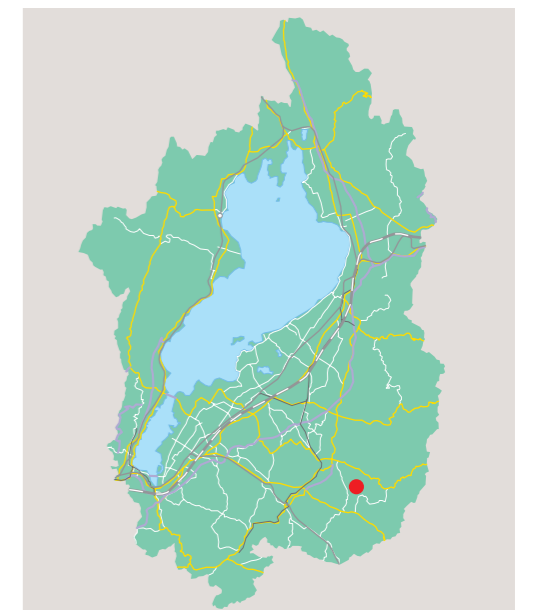
【もっと詳しく知りたいひとへの案内】

- (関連文献/関連施設)
- 日野町史編さん委員会『近江日野の歴史』第5巻文化財編
 - 滋賀県教育委員会『滋賀県文化財学習シート 史跡名勝天然記念物編』
 - 『日本の天然記念物』講談社

シャクナゲは滋賀県の郷土の花として知られ、春に紅紫色から白色の美しい花を咲かせる。

天然記念物に指定されている鎌掛谷ホンシャクナゲ群落は、シャクナゲの群生地としては比較的低位である標高310m付近の溪谷斜面にある。

小河川によって開析された深い谷の急な斜面に群生するホンシャクナゲ。水の流れが形成した急峻な地形と植生が織りなす美しい景観だ。





鎌掛谷ホンシャクナゲ群落

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落

所在地 日野町鎌掛

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落

鎌掛谷のホンシャクナゲは爺斧岨川溪谷の急峻な岩盤斜面にその群落を形成している。小河川が形成した斜面の傾斜は40度以上で、土壌が保持されないような立地条件である。

ホンシャクナゲは本州の中部地方以西と四国に分布するツツジ科の常緑低木で、比較的標高の高い溪谷の斜面などに生育し、適度な湿り気を持った土壌を好む。樹高は4mほどで4月下旬から5月中旬にかけて紅紫色から白色に開花する。

天然記念物鎌掛谷ホンシャクナゲ群落は昭和6年に約22万2千㎡が指定されたもので、標高310m付近という自生地としては比較的低位に群生する希な例である。鎌掛谷を含む綿向山山系は局所的豪雨地帯でもあり、そういった環境も希有な群落を形成する要因ともなっている。

昭和29年（1954年）、日本放送協会や全日本観光連盟、日本交通公社、植物友の会が

企画した郷土の花選定運動での投票により、シャクナゲが滋賀県の郷土の花として選定された。以来、県木のモミジ、県鳥のカイツブリとともに、滋賀を代表する花としてシャクナゲは県民に親しまれている。

石楠花池

爺斧岨川沿いの道から鎌掛谷ホンシャクナゲ群落へ向かう谷筋の登り口近くに、清水を湛えた石楠花池がある。

この池は農林省の直営事業によって昭和16年に竣工した砂防堰堤によって形成され、現在は灌漑池としての機能も備えている。近年、堰堤とその周辺の一部は手が加えられたが、堰堤本体には玉石練積みによる築堤当初の風情を見ることができる。

池のほとりの四阿からは溪谷を映した美しい水面を見ることができ、鎌掛谷ホンシャクナゲ群落の見学に清涼な風情を添えている。



石楠花池と四阿



爺斧岨川の砂防堰堤

天然記念物 鎌掛の屏風岩

鎌掛周辺の天然記念物

滋賀県内における国指定の天然記念物は14件あり、そのうち鎌掛谷ホンシャクナゲ群落を含む5件が日野町内の鎌掛を含む綿向山系周辺にある。さらに綿向山山頂付近は特別天然記念物カモシカの保護地域にも含まれており、天然記念物の密集度はこの地域の特質と言える。

ホンシャクナゲと同じく植生に関わる天然記念物、「熊野のヒダリマキガヤ」は大字熊野字東坂と字中家の2本が指定され、いずれも幹周囲が2.5m前後の巨木である。ヒダリマキガヤは高さ25m前後、胸高直径2mほどまで成長する常緑の針葉樹で、種皮に左巻きの縦溝があることを特徴とする。

鎌掛谷ホンシャクナゲ群落に近い「鎌掛の屏風岩」は鎌掛集落の南東にある鎌掛城跡の西側に露出する平板状の大岩石で、粘板岩と珪岩からなり四曲の屏風を立てかけたように見えることからその名称がつけられた。屏風岩の珪岩は鈴鹿山脈の造山運動による褶曲作用の影響を受けずに直線的な岩層であることが特徴で、板状に割れやすい特性と淡青色と灰色が交互に重なる層理の美しさを持つ。鎌掛石と呼ばれるその石材はかつては石垣などに使われたが、今は天然記念物として保護されている。

このほか、「綿向山麓の接触変質地帯」、「別所高師小僧」、そして「カモシカ」がこの周辺の天然記念物である。